

特集●母子保健をめぐる今日の課題

母子保健活動の変遷と課題	大阪府立母子保健総合医療センター	小林美智子
妊婦健診の現状と課題	東京女子医科大学産婦人科・母子総合医療センター	松田 義雄
多胎出産の現状と子育て支援	大阪市立大学大学院看護学科	横山 美江
より良いお産のために	京都橘大学看護学部	遠藤 俊子・大塚 弘子
母乳育児と離乳食支援	日本子ども家庭総合研究所母子保健研究部	堤 ちはる
子どもの歯科保健最前線	昭和大学歯学部小児成育歯科学講座	井上美津子
発達障害の早期発見と乳幼児健診の現状	国立保健医療科学院	加藤 則子
法制定後の児童虐待対策の現状と課題	日本子どもの虐待防止民間ネットワーク	岩城 正光
現代における子どもの心の発達と問題	こども心身医療研究所	富田 和巳
●視点		
21世紀における応用老年学の必要性	人間総合科学大学大学院教授	柴田 博

あ と が き

将来、遺伝子を調べると寿命が完璧に予測できるようになる、というようなことはないと思いますが、さまざまな疾病の罹患リスクが一定程度予測できるようになり、それに合わせて生活習慣の改善を図ることが一般的といった時代が到来するかもしれません。臨床検査機関の中には将来の疾病の罹患リスクを調べる事業を行っているところがあることを考慮すれば、既にそのような時代が始まっているのかもしれない。

遺伝子を調べて疾病の発病予測をすることには、倫理上の問題を含めて多くの問題があると思われ、実際に実施する前に社会の中で十分に議論する必要があると思います。例えば、致命的な遺伝子、その遺伝変異を持っていれば、「○歳までに△病で100%死亡する」などということ

が分かるようになった場合、このような技術は使用してよいのでしょうか。この種の問題に対してはいろいろな考え方があると思いますが、根源的な議論と合意が必要だと思います。

さまざまな問題について今後議論が進められると予想されますが、遺伝子による疾病罹患予測は、上述したように既に実用化が始まっています。おそらくわれわれには馴染みのない領域だと思いますが、疾病の罹患リスクの予測が実用化されている以上、“知らない”では済ませられません。そこで、今月号の特集として分子遺伝疫学を取り上げました。難しい内容かもしれませんが、ご精読下さい。

(西田茂樹)

公衆衛生(第74巻 第9号) 2010年9月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,415 円(本体 2,300 円 + 税 5%)

(2010 年年ぎめ予約購読料 28,200 円 電子ジャーナル閲覧オプション付 36,700 円 ※配送料弊社負担)

発行：株式会社 医学書院 代表者 金原 優 ☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

本誌編集室(担当/野中・今田)：直通 TEL (03)3817-5718 FAX (03)3815-7802 E-mail: koshu@igaku-shoin.co.jp

販売部：直通 TEL (03)3817-5659・5660 FAX (03)3815-7804 振替口座：00170-9-96693 番

印刷所：三美印刷(株) TEL (03)3803-3131

広告申込所：(有)メディカ・アド TEL (03)5776-1853 デザイン：デザイン・プレイス TEL (03)6426-7805

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

© 2010, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・ **ICOPY** (社)出版者著作権管理機構 委託出版物)

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

・ 公衆衛生 URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/koshu/>

編集顧問

多田羅浩三 大阪大学名誉教授・放送大学教授

編集委員 (50 音順)

阿彦 忠之 山形県健康福祉部次長・山形県衛生研究所長

品川 靖子 前 東京都文京区保健衛生部・文京保健所保健サービスセンター所長

高鳥毛敏雄 関西大学社会安全学部教授

西田 茂樹 福島県衛生研究所長